

令和2年3月18日

長岡市長 磯田達伸様

小国地域委員会

委員長 鈴木京子

第8期小国地域委員会 活動報告書  
～将来を見据えた『小国地域のまちづくり』の提案～

《小国地域のコミュニティの現状と課題》

小国地域は、長岡市と合併した平成17年4月に7,010人であった人口は、14年を経過し、令和2年1月では5,045人(△28.0%)に減少。高齢化率は、34.6%から45.2%と高くなり、人口減少と少子高齢化、過疎化の進行により、集落単位での自治機能の低下や将来的な存続が懸念される厳しい状況に直面しています。

このような要因から、小国地域委員会では、前期の「小国地域のまちづくり」の取り組みを継続し、さらに具体的な動きを加速させるための方策を協議するとともに、おぐにコミュニティ協議会と支所が共催して開催した「地域づくり交流会」へ自主的に参加することで、地域内で活動する団体や個人の思いに触れながら意見交換を行ってきました。

《今後の小国地域のまちづくりについて》

今後、地域全体が一体となった地域づくりを推進することを目指し、今後の「小国地域のまちづくり」について、下記のとおり報告するもの。

1 おぐにコミュニティセンターを『地域のよったかり場』として活用する

- 今後、少子高齢化が進むことによって、住民同士のつながりや、多世代交流が重要になってくることから、地域で活動する団体や個人が気軽に集まれ、お互いに連携できる場として重要である。
- 地域の主な活動団体(総代連、コミュニティ協議会、観光協会、小国サテライト、チームおぐに等)の事務局をおぐにコミュニティセンター内に集約することで、連携協力が容易になる。

【実現に向けた検討項目】

- (1) 各団体の活動を容易に把握でき、連携、協力体制の整備
- (2) 地域全体を俯瞰し、各団体の活動支援や行政との調整を担う人材の確保
- (3) 『地域のよったかり場』の運営方法、運営費用
- (4) 施設の有効活用